

第4回伊豆市総合計画審議会 会議録概要

日 時 令和3年8月12日(木) 19時～

場 所 生きいきプラザ 健診ホール

出席者 ○伊豆市総合計画審議会委員(12名)

飯田正志会長、内田直美副会長、植田延司委員、梅原龍一委員、遠藤護委員、小長谷知恵委員、志賀清悟委員、立岩康男委員、谷村彦太郎委員、土屋秀行委員、野毛貴登委員、服部保江委員

○オブザーバー(1名)

大石桜子氏

1. 開会

事務局より、資料を確認。また、16名中12名出席のため本日の会議が成立することを報告。

2. 会長挨拶

会長より挨拶。

3. 議事

(1) 後期基本計画案の最終確認について

資料1～3について事務局より説明。以下意見交換。

(会長)

今回は最後の審議会となるので、本日頂いた意見に対する計画への反映については、私の方に一任頂くといいことか。

<委員異議なし>

(会長)

それでは、承認することとする。

(2) スケジュールについて

資料4について事務局より説明。委員からの意見はなし。

(3) 答申(案)について

答申案について事務局より説明。

(会長)

答申書の原案についていかがか。

<委員からの意見はなし>

(会長)

このままで宜しいという事で、責任を持って答申をさせて頂く。

最後に、今回の総合計画審議会に参加した感想、言い足りないこと、今後への期待など、委員の皆様自由に意見を述べてもらう時間を取るので、ご発言をお願いしたい。

(植田委員)

このような貴重な機会を与えられたことは非常に嬉しく思う。各部局の方達が伊豆市をより深く考えて進められていることが分かった。私は、地域づくりで防災に携わり今年で4年目になる。以前、月ヶ瀬学区地域づくり協議会と矢熊区共催で「狩野川台風を語る会」を行い、地区によって狩野川台風の捉え方に違いを感じた。また、防災についての考え方も各地区で隔たりがあるのではと感じている。最近では豪雨などの異常気象が続くため、これから息子の代や孫の代は大変になると思う。

(梅原委員)

一つお願いしたい点は、計画を作ることが目的ではなく、計画を基に成果を出す事を目的としていただきたい。これだけの労力を使って一生懸命考えられた本計画が、良い結果として残るように頑張ってください。実践し結果を出すことは、計画を作ることの百倍千倍大変だと思う。市の方に頑張ってください、それを市民が協力しながら良い結果が出るようにしていきたい。

(遠藤委員)

熱海の災害があった時、すぐに国交省が飛行機を飛ばして駆けつけて対応いただいていたが、熱海の地形を見ると余裕が無い印象であり、一方で、伊豆市はまだ利用していない広場等があるため、災害の時には良いと考える。伊豆市都市計画に基づいていいまちづくりが出来ればと思う。皆で協力すればまた素晴らしいまちになると思う。

(小長谷委員)

この審議会に参加し、伊豆市のために多くの市民の担当の方が関わって計画を作られていることを知った。

(志賀委員)

この審議会に参加し、様々な勉強をさせていただいた。各部門の方々のご意見をお聞きでき、非常に参考になった。ただ、名前が「総合計画」のため、このような計画書になることは致し方ないと思うが、悪い意味で言うと「その場的に作成した計画書」という印象がある。計画で終わっては何の意味もないと思うため、是非これを実現していただきたい。絵に描いた餅は食べられないが、絵が描かれた餅は食べられると思うので、ぜひオープンにして進めていただきたい。

人口減少を止めるというのは難しい話で、我々が生きている間に実現することが難しいことも沢山あると考える。前回、会長が発言されたように、教育が大事であり、人の意識を変えていかないと進まないことも沢山ある。人口減少を想定した上で様々な対策を考えていかないと、人口を減らないようにする対策も大事だが、減っていく中でどうするかという対策も考えることが非常に大事ではないか。

伊豆市は広い。広いという事はそれだけ道路も長く、その管理をするだけでも大変である。例えば、函南町のような狭い地域の中で道路を管理することと、伊豆市のように広い地域の道路を管理するのは費用も負担も違うということを実感した。道路だけでなくインフラ等は全てに該当すると思う。人口減少対策のまちづくりとして「コンパクトシティ」というひとつの発想がある。何らかの形で取り組ま

ないと少子化・人口減少に対しては応えきれない。もう耐えきれなくなってしまう伊豆市を想像するとぞっとするので、ぜひ今後、若い方々で頑張ってください。

(立岩委員)

この会議に出るまで伊豆市のことをよく考えていなかったのだが、本会議への参加を機に勉強させていただいた。市役所の職員が一生懸命考えていることがよく分かった。

たまたま私が朝早く3時30分に起きてテレビをつけるとオリンピックの番組でマウンテンバイクの競技がされていた。もし、前日から分かっていたら最初からしっかり見られたのにと、残念であった。自転車競技が放送されることが分かれば皆さんに見ていただく機会になるので、非常に残念だった。情報発信が大切であると感じている。

また、8月の初めからプレミアム商品券をやっている。三島信用金庫と郵便局で発売している。5千円で7千円分の商品が買えるようになっており、9月30日迄なので是非これを活用して伊豆市の活性化にご協力いただきたい。

(山下氏)

このような会議に参加することは初めてだったが、様々な方から様々な意見があり、良い会議だったと思う。

(服部委員)

この審議会に参加し、勉強させていただいた。そして本計画を策定するのによく考えて作られていることが皆さんの意見から分かった。現在、LGBTQがLGBTsに変わりつつある。令和7年までの計画というのであれば考慮していただきたい。また、プライベート5G、パブリック5G等を運用できれば、もっと教育に先進的に利用できるのではないかと思う。

(野毛委員)

伊豆市は修善寺地区、土肥地区、天城湯ヶ島地区、中伊豆地区の4地区が集まって伊豆市となっている。観光という視点で考えると、それぞれの地区で四季によっても全然違う。各地区で売り物も文化もマーケットも違う。伊豆市の基幹産業である観光業は継続して取り組まなければならない。我々のような地域事業者がしっかりと地元の人あるいは外部から来る人を受け入れて住ませ、人口減少施策の一翼を担う為に対応しなければならない。一方、観光事業のポテンシャルが幅広く沢山ある中で、疫病・天候という外的要因一発で良い流れを止められてしまうという産業でもある。DMOは盤石な組織として活用されるべきであり、観光業者のみならず地域の市民の方も一人でも多く参加するべきだと考える。

(土屋委員)

私は伊豆市民であり、様々な地域で市の窓口とやり取りをさせていただいているが、このような計画があったのかと、内容についてとても感動している。本計画策定に携われたのは非常に嬉しいことだが、現実的に実感したい思いである。例えば、現場の窓口に行き手続きをした時に、「無理です」「できません」の理由をよく聞くことがある。何故、窓口で我々が実感できないのかという点が次のステップだと考える。現場にどのようにして本計画を下ろしていくかが大事だと思う。いつの日か、都市計画課、農業委員会などに行った際には、「こんなに変わったのか」と実感できたら良いと思う。

(谷村委員)

2018年か2019年に伊豆市にオリンピックがくるという時に、内閣官房の国土強靱化のワークショップを開催したことがある。三島で開催し、当時の静岡大学教授防災総合センター長の岩田先生に講師として来ていただき、「オリンピックの最中に災害が起きたらどうする」ということをテーマに全国から集まってもらいワークショップを行った。その際、様々な意見が出たが、それを上手く活かせなかった。実際に今回、豪雨があったが、一週間天候がずれていたらこの雨でどうなっていたか分からない。そのような事も含めて今後も伊豆市の防災に携われたら良いと思う。

(内田副会長)

私は、保育・教育の現場に移り、その分野はある程度理解していても、全体の分野では知らないことがとても多く、今回、様々な分野の専門の方が一緒になって議論することはとても有難いことだと思った。皆さんが発言されたように、本計画は非常に良いと思う。これだけのものを作るのに大変な労力と知恵を絞って作られたと思うため、私はこれを読み、改めて伊豆市が好きだと思った。市内旧4町と一緒に考えたので、それぞれの魅力がある内容となり、こんなに魅力がある町はそうそうないと改めて思った。市民がその素晴らしさを実感し「伊豆市いいなあ」と思っていたくには、本計画を市民の方達にいかにか浸透ができるか、行政も頑張る、市民も頑張る、というものをどれだけ作っていけるか、そこが勝負だと思う。ダイジェスト版を配布する等様々な方法があるが、市民のためにこの素晴らしい企画を伝えるというのをどういう場面で作れるのか、私も微力ながら「こういう計画がある」と頑張って伝えていきたいと思う。ブランド化という言葉が出てきたので、伊豆市の良いところ、ここしかないもの、他と違うもの、そういったところを目指していけると良い。

(会長)

役所は非常に良い計画をする。それが実行出来るかどうかということが問題であり、例えば市職員は何年かしたら異動され、そこで誰かが引き継ぐこととなるが、そうなった時に引き継ぎが上手くいかないと10年計画がパーになる。このような計画を5年計画、10年計画で立てた際、5年または10年でできるかと言うとできないことも沢山ある。今回の後期計画は非常に良い事が記されているが、集中的に実行するのがどれなのか分からない。5年間で何が出来るかというのを集中的に実行する必要がある。実行しないから苦情が出てくる。この中で一つでも二つでもいいからこれは「絶対にやる」ということを、部長から課長の方々がしっかりと把握し、その意識を持って進めていただきたい。市長も副市長も選挙があるのか分からないが、終わったら終わりではなく、10年くらいかけて実行しないと、絵に描いた餅が喰えなくなると考える。

以上で本会議は終了となる。大変熱心なご審議をいただき、しっかりとした計画づくりや更新ができたと思う。

4. 市長挨拶

(市長)

飯田会長始め委員の皆様にはこれまで大切な良い時間を割いていただき、幾度もご指導頂きまして、貴重なご意見を拝聴させて頂き、御礼申し上げます。

この審議会でのご意見は非常に有意義であった。私は小学校の維持が重要だと思っていた所であったが、前回会議で土屋委員から、市外からシニアの方が別荘地として来ているニーズがあり人口が増えているという意見をいただき、実際に別荘地は人口が増えている。一方で、修善寺駅前や八幡、青羽根では人口が減っている状況である。皆さんのご意見の中から今まで自分で意識していなかった、気づいていなかったものを確認させていただいた。

また非常に嬉しかったことは、オリンピックが成功したことも勿論嬉しいが、コロナのワクチン接種会場と修善寺駅のオリンピックのおもてなしがスムーズに対応できたことで評価をいただいたことである。これは様々なところから話を聞いており、伊豆市の修善寺の集団接種は、「待たずスムーズに行ってくれる」、「案内は丁寧」、「修善寺のおもてなしは何を聞いても答えてくれる」等、対応が良いと言われている。

私はしっかり自ら責任をもって頑張っていきたいと思う。だが総合計画は期間も決められており、内容的にもこのようなものになっているが、その特徴として、今回は大城市長から私までに引き継いだ20年間の市建設計画の最後の計画期間であり、中学校建設の拠点整備などにより、市建設事業は完了となる。そのため、第3次総合計画では相当変化があると考えている。

伊豆市のインフラ整備について、このまま実行すると、例えば水道管を張り替えるのに200年かかるといわれている。伊豆市のインフラの整備をどのように対応していくか、どのように行政サービスを維持していくのかという視点で、第3次総合計画というのは大きく進歩すると思われる。今後5年間では、市建設計画に伴うハード整備があるため、本計画を進めさせていただきたい。

5. 閉会

以上